

大田市長さんとの対話的講演会の開催 ～2年次「進路設計（総合的な探究の時間）」～

9月1日に楢野弘和大田市長さんを講師に迎え、2年生の「進路設計（総合的な探究の時間）」の授業で「市長さんとの対話的講演会」を開催しました。大田市が抱える地域課題を知り、邇摩高生に何ができるか、その解決策を考えながら、3年次に取り組む課題研究のテーマ設定の一助とするのがねらいです。大田市長さんからは次のようなお話をいただきました。

大田市が抱える最大の課題は人口の減少です。自然増減の推移をみると出生児数は年々減少傾向にあり死亡者数を大きく下回っています。そこで大田市の総合計画を進める中で若者の地元への定着、市外へ進学した者が地元に戻って来ることのできる大田市とするため、基本計画を策定しその基本方針として次の6つの柱を挙げ取り組んでいます。

【基本方針・6本の柱】

- I 産業づくり → 多様で活力ある「産業」をつくる
- II 豊かな心づくり → ふるさとを愛する「豊かな心」をつくる
- III 暮らしづくり → だれもが住みよい「暮らし」をつくる
- IV 都市基盤づくり → くらしや交流を支える「都市基盤」をつくる
- V 自然・生活環境づくり → 人と自然が共生した「自然・生活環境」をつくる
- VI 持続可能なまちづくり → 協働・共創により「持続可能なまち」をつくる

この中で最も重要視しているのが『産業づくり』で、若手企業主の勉強会である『おおだ未来創造塾』の開催、IT企業等の企業誘致、10年かけてのJR大田市駅周辺のまちづくり、全国一の水揚げを誇る大穴子や一日漁で獲った鮮度抜群の魚など食による経済活性化、世界遺産（石見銀山）・国立公園（三瓶）・日本遺産など大田の誇る魅力を活用した観光振興、稼ぐ農林水産業による経済活性化など多様で活力のある「産業」をつくることで高校生が進学等で一旦市外にでてみずれ地元に戻ることもできる・帰りたと思う魅力のある大田市にしていきたいと熱く語っていただきました。

また、今年度オープン予定の道の駅「ごいせ仁摩」については、山陰道が開通された場合、仁摩は、鳥取から下関までの中間地点であり、島根県においても丁度中間地点に位置し、道の駅が山陰道に隣接している点からも、多くの利用者が見込まれ、経済の活性化が期待できるということです。「ごいせ仁摩」の最大の特徴は、島根県の道の駅では唯一となる充実した鮮魚コーナーが設置されることだそうです。新鮮な地元の魚介が購入できるのは魅力的だと感じました。

本校も道の駅とは連携を図りながら地域の活性化に貢献していきたいと考えています。道の駅内に建設されるステージでは石見神楽部や吹奏楽部の公演を開催し、邇摩高校特設コーナーでは、加工品等の販売を行う計画です。現在、新商品の開発などのプロジェクトをスタートさせているところです。そして、現在本校を会場に開催している邇摩高フェアも道の駅で開催できるかも知れません。

市長さんには、お話の後生徒からの質問に答えていただきました。Q.「市長で良かったなと思うことはどういう時ですか？」A.「市民の皆さんが、頑張っている姿を見るとき」Q.「なぜ市長になろうと思ったのですか？」A.「大田市をもっと元気にできるはず。市長になってそれを実現させたいと思ったから。」Q.「若者に求めているものは？」A.「『チャレンジ』目標や夢を持って欲しい。」市長さんの大田市に掛ける熱い思いが、生徒達にも伝わったと思います。

2年生の皆さんはこれから課題研究のテーマを設定すると思いますが、それぞれの系列の学びを生かしながら、大田市に貢献できるテーマを見つけて欲しいと思います。

